

# ARGENTINA



発行：(社) 日本アルゼンチン協会 編集長：松本 アルベルト 会報第43号

〒105-0004 東京都港区新橋1-17-1 新幸ビル Tel:03-3501-4684 Fax: 03-3595-3932

E-mail:argentina@nifty.com (事務局) E-mail:jam@ideamatsu.com (編集部)

印刷：株式会社イデア・インスティテュート 2004年1月28日発行 N°43-ENERO de 2004

季刊会報 - BOLETIN TRIMESTRAL PARA SOCIOS <http://www.argentina.jp/>

## 年初のご挨拶

(社) 日本・アルゼンチン協会 会長 土屋 義彦



あけましておめでとう御座います。会員の皆様には良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、アルゼンチンにおいては、昨年5月に就任したキルチネル大統領は80%にも達する高い支持率をバックに新しい政策を果敢に実施しつつあり、また経済も回復の兆しを見せるなど、総じて政治・経済が安定化に向かっているようであります。一連の選挙も12月に終了し、今年はいよいよ政策の立案・実施に集中できる時期でありますので、新政権にはデフォルトに陥っている債務の問題をはじめ、国際舞台に復帰するための諸懸案を早急に処理していただき、アルゼンチンが南米の雄としての本来の姿と

自信を一日も早く取り戻してくれるようお願いいたします。トヨタ・カップを制したボカ・ジュニアズのように。

幸いわが国経済も長いトンネルの先に明るいものが見えてきたように思われ国民や企業にも長い目で諸外国との関係を考えるだけの余裕が若干なりとも出てくるものと期待いたします。

このような状況を背景として私どもの協会と致しましても、日・亜両国間の関係増進の立場に立って、会員間の交流、会員のご関心・ご期待に沿うような活動を進めるとともに、会員を増やす努力も大切と考えております。会員の皆様の絶大なるご協力をお願い申し上げます。併せて、年頭に当たり皆様の益々のご健勝、ご繁栄を祈念いたします。

¡Feliz Año Nuevo! Auguro la recuperación económica que se está dando en la República Argentina y deseo una pronta reinserción internacional en financiero para que las relaciones entre ambos países se estrechen aún más. También imploro por la felicidad y la prosperidad de los socios y amigos de esta Asociación.

Yoshihiko TSUCHIYA-Presidente Honorario, Asociación NIPO-ARGENTINA

## 横浜で「アルゼンチンのクリスマス」

Navidad argentina en Yokohama

12月1日から25日の間、横浜市山手西洋館で「世界のクリスマス」という催しが開かれ、今年、アルゼンチン他6カ国が選定されたことで(ギリシャ、イギリス、オーストリア、カナダ、アイスランド、フランス)、日本アルゼンチン協会もこの企画に協力しアルゼンチンのクリスマス飾りを行った。西洋館の一つである山手234番館が指名されていたことで、イレーネ賀集理事及び山下美里秘書が飾りづけした。

アルゼンチンは南半球に位置しているため、クリスマスの時期は真夏に当たるが、西洋の影響で通常のクリスマスの飾り付けは他の欧米諸国とあまり変わらないのである。しかし、それでは、あまりアピールにならないと判断したため、全てを国旗の色(水色(薄いブ



**ASOCIACION NIPO-ARGENTINA:** Institución con personería jurídica como Asociación Civil declarado de interés público (koeki hojin) por el Ministerio de Relaciones Exteriores de Japón para fomentar las relaciones culturales, sociales e institucionales entre Japón y Argentina. La Asociación cuenta con socios corporativos (instituciones y empresas), socios particulares plenos y colaboradores. Se autofinancia y no depende de ningún subsidio público. Los directivos trabajan *ad honorum*.

(C)Copyright Shadan Hojin NIHON ARGENTINA KYOKAI Tokio.Minato-Ku.Shinbashi 1-17-1.Shinko Bldg.105-0004.JAPAN



ルー)と白)で統一したのである。テーブルクロスをはじめ、ツリーは水色のリボンと銀色の玉や星で飾られた。食器も白のお皿に銀のフォークとナイフ、それにナプキンも水色リボンで結んだものにした。このことは地元メディア(神奈川テレビ等)でも注目を浴びた。別室では、20世紀初頭の港の様、現代のブエノスアイレス市内、亜国の自然や観光名所等が写真によって紹介された。このパネルは、アルゼンチンタンゴファンで本企画に参加した山本女史によるものであった。そして、アルゼンチンを象徴する gaucho や馬の人形、銀のマテ茶容器や貴重な備品は会員や役員他の協力によって提供されたものである。



この企画は、(財)横浜市緑の協会によって主催され、ここ数年山手西洋館で各国のクリスマスが紹介されている。

余談であるが、日本では12月25日を過ぎると、飾りを外すが、アルゼンチンでは1月6日まで残すのである。1月6日には、“東方の3博士”が子どもにプレゼントを持ってくるということで、アルゼンチンのお父さんとお母さんは、12月25日と1月6日の2回もプレゼントを用意しなければならないのである。

この企画は、(財)横浜市緑の協会によって主催され、ここ数年山手西洋館で各国のクリスマスが紹介されている。

余談であるが、日本では12月25日を過ぎると、飾りを外すが、アルゼンチンでは1月6日まで残すのである。1月6日には、“東方の3博士”が子どもにプレゼントを持ってくるということで、アルゼンチンのお父さんとお母さんは、12月25日と1月6日の2回もプレゼントを用意しなければならないのである。

<http://www.city.yokohama.jp/me/green/ygf/yamatesho2003.html>  
写真提供：(c) Irene Gashu

□準備期間と開催中、館長の国井和子女史及びスタッフに多大なご協力をいただいたことを改めて感謝する。

\*\*\*\*\*

## トヨタカップ：BOCA JUNIORS 優勝 Campeón Intercontinental en la Copa Toyota

12月14日、横浜国際総合競技場で第24回トヨタカップが開催され、南米のチャンピオン、アルゼンチンの名門クラブチーム「ボカジュニアズ」と欧州チャンピオン、イタリアの「ACミラン」が対決した。

前半1対1になるが、後半で決着が付かず延長戦に突入する。規定に基づいて15分の延長戦を2回行うが、結果的にはPK戦になり、長い緊張の末ACミランを3対1で下したボカ・ジュニアズが、世界ナンバーワンの座に輝いた。



ブエノスアイレスはお祭り気分で、サポーターだけではなく一般市民からも歓迎を受け、エセイサ国際空港からボカのスタジアムまで5時間もかかった。市内のキヨスクでは、ボカ一色(黄色とブルー)でスポーツ新聞や雑誌が飛ぶように売っていた。

ボカのカルロス・ピアンチ監督は、今回でトヨタカップ2回目の優勝を果たしたが(前回は2000年)、ベレスサーフィルにいたときにも優勝しており(1994年)、監督としてこのカップを3回制覇したことになる。

会見では、「3回世界一になったことは自分の自慢になる大事なことも知れないが、私を愛してくれている人たちとこの喜びを分かち合いたいのだ。選手たちはほんとうに良くやってくれた。すべて彼たちのお陰である。そして、このタイトルは私の家族への贈り物でもあり、家族は私の全てだ。」というコメントをしているが、ブエノスアイレスでは、各メディアが試合と優勝祝いそのものだけではなくピアンチ監督の人柄やマネジメント能力を高く評価した。監督の戦略と戦術、リーダーシップの発揮等を強調しており、数年前から大企業等からはマネジメントに対する講演の依頼が後を絶たないのである。忍耐強い性格でコツコツ一つ一つこなしていくというスタイルで世界最強のチームを築いたのである。また、チームの気持を一つにするため、みんなと区別なく良く話をするという。そして、試合当日、今回のように着替え室にモチベーションを高めるためにフレーズを貼る癖があるようだ。今回は、「細かいことを全部達成するためには忍耐が必要である。しかし、それこそが真の完璧に近づくためのヒントである」と書いてあったらしく、はじめは、選手たちは何を意味するのか分からなかったと言うが、そのメッセージが優勝という結果を導いたと関係者は話している(NOTICIAS,2003/12/20)。

これで、ボカジュニアズはクラブチームとし



## ● ビエルサ外相来日

Canciller BIELSA en Japón

2001年末の経済危機以来、そして昨年5月25日に就任したキルチネル政権誕生後はじめての閣僚ラファエル・ビエルサ外相が昨年の11月、三日間の日程で初来日した。滞在中、川口外相をはじめ、ジェットロやJICAの理事長、二国間関係に関わっている財界トップ等とも会談した。

川口外相との会談では、亜政府保証の債券所有者への支払大幅削減問題や70年代軍政権時代の日系人行方不明者問題等について意見交換が行われた。ビエルサ外相は、すべての債券者に公平な対応を約束すると話すと共に、行方不明者に対しては亜国議会が刑事訴追免除法を無効にしたことで当時の状況の事実解明に力を注いでいると述べた。

また、日本の個人債権者の多くは年金生活者であるため、同外相は、「アルゼンチン国は、我が国を信用して老後のために債券を購入してくれた日本の方々にお詫びをしなければならない。我々としてもとても気の毒に思っている。アルゼンチンは、この問題を何とか解決しなければならない。」と述べた。

アルゼンチンは経済の再建と復活の機会はあると位置づけており、外相滞在中に都内で米州開発銀行IDB-東京事務所主催で「アルゼンチンセミナー」が開催された(28日午後3時)。外相は体調不良で欠席されたが、タイアナ副大臣の挨拶からはじまって、通商担当のレドラド長官の講演によって同国の現状および国際経済関係の展望が詳細に説明された。

29日、京都へ移動しその後関西空港から中国へ発ち、北京そして上海を訪れ、両市でも同じような日程でセミナーが行われた。



中国は、現在アルゼンチンが輸出している大豆の30%(7百万トン)を購入しており、重要な輸出先となっている。今回の訪問はこうした経済関係を強化すると共にバイオテクノロジーや自動車部品、鉄鋼等輸出品目の多様化を図る目的もあった。また、まだ交渉中ではあるが、アルゼンチン航空の直行便開始を今年の5月か6月に予定しているとされ、その際キルチネル大統領が訪中することになっているようだ。一方、その前に温家宝首相のアルゼンチン訪問も地元メディアでは伝えられており、南極訪問も予定されているようである。

こうした期待の中、12月16日、ブエノスアイレスに福建省の経済ミッションが訪れ、大豆や食品の買い付けを含めて、環境保全技術に対する技術協力についても話し合いがもたれた。

(編集部 (c)JAM)

注) 2003年の中国への輸出は前年比57%増で21億ドルに達した。輸出先として5位から3位になったことで、政府も中国を戦略的なパートナーとして位置づけている。

て世界トップレベルの水準に達し、経済誌等では、スペインのリアルマドリード、イタリアのACミラン、そしてブラジルのFCサントスに次いで4番目にランキングしていると報じている。ここ数年で経営を立て直したマクリ社長は、アグレッシブなマーケティングを展開しながら今後はアジアをはじめ世界的にボカのグッズやビデオ販売を予定しているという。トヨタカップでの優勝は経営基盤強化だけではなく、新しいビジネス展開へのチャンスでもあったようだ。

\*\*\*\*\*

### 「アルゼンチンワインセミナー」

Seminario y degustación de vinos argentinos-JETRO

昨年の11月5日、日本貿易振興機構-JETROの主催及び在日アルゼンチン大使館の後援で「アルゼンチンワインセミナー」が開催された。中堅のワイナリー6社が来日し、このセミナーでは自社ワインを紹介すると共に試飲会をセミナー

当日と次の日、二日間にわたって実施した。

セミナーでは、アルゼンチンワインに精通している田辺由美女史が同国ワインの魅力と可能性について講演し、他の各ワイナリーの代表は、栽培技術や醸造技術、マーケティング戦略や生産地メンドーサ等について述べた。試飲会では、約50種類のワインが紹介された。マルベック、メルロー、カベルネソービニオン、シャルドネー、シラー、ピノヌアール、タナ等、非常に品質の高いワインであったと参加者は話していた。6社の内、5社が既に北中南米、欧州、東南アジア等に輸出しているが、Bodegas Salenteinの



みが日本市場での実績を持っている。

ジェットロの柳田氏によると、本セミナー及び試飲会には約150人が参



加しており、品質の高いワインであったため、高い関心を示してくれたところもいくつかあったようである。

アルゼンチン側は、代理店もしくは輸入業者(商社)の獲得を大きな目標として来日したが、現市場の飽和状態、事前の勉強不足等によって期待したほど大きな成果は得られなかったようである。

しかし、この事業には、「アルゼンチン&ウルグアイワイン買付ミッション」が今年の2月に予定されており、両国の有力ワイナリー数社を訪問するほか、現地での商談設定も予定していることで、新たな可能性と市場開拓は始まったばかりである。

(編集部(c)JAM)

**注1)** アルゼンチンは世界で第5位のワイン生産国。主要生産地は、メンドーサ、サンファン、ラリオハ、サルタとリオネグロ州。葡萄は高地で栽培されており、農薬や殺虫剤があまり使用されず、大半のブドウはエコロジー栽培であるという。全生産の80%は赤ワインで、そのほとんどが国内で消費されているが、ここ数年輸出向けの高品質のワイン生産が伸びている。主な輸出先(2003年): 米国(26%)、英国(19%)、ブラジルとカナダ(6%)、パラグアイとオランダ(5%)、デンマーク(4%)、そして日本は全体の2%である(年間66万リットルで0.5%のシェアを意味する)。

**注2)** 「アルゼンチン&ウルグアイワイン買付ミッション」の現地日程は2月15日~20日の間で、渡航時間を入れると一週間の期間。ビジネスクラス、エコノミークラス両コースでの料金設定が設けられている。その他詳細に関する問い合わせ先は: ジェトロ貿易開発部・開発支援課柳田氏。

Tel:03-3582-5575 Fax:03-3585-1630

E-mail:TEC@jetro.go.jp

\*\*\*\*\*

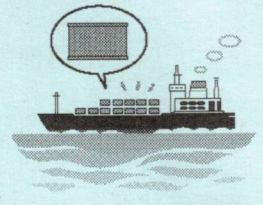
**FOODEX 2004 - Stand de mate argentino  
ジェトロの「マテ茶ブース」**

今回JETROは、アルゼンチン「マテ茶産業育成プログラム」の一環として、FOODEXを通じて現地サプライヤーと日本のインポーター・バイヤーとのビジネスマッチングの場を提供する。

また、3月10日は、「マテ茶セミナー」が開催される。亜国からは、Cooperativa Agricola Ltda.とEstablecimientos Las Marias S.A.の担当者が来日する予定になっている。

**2003年の輸出入と2004年の展望**  
Exportaciones e importaciones 03 y perspectivas 04

ペソ下落、穀物主に大豆の国際市場価格の上昇、欧米での気候による穀物生産への悪影響、中国など需要拡大等様々なプラス要因に



よってアルゼンチンの輸出は2003年飛躍的に伸びた。レドラド商務庁長官によると、同年の輸出増は平均14%で、EU市場向けが11%、アメリカが18%、中国が100%、チリが16%、そして東南アジアへが67%である。工業商品のブラジルへの輸出は思ったほど伸びなかったものの、メキシコやチリへの自家用車輸出がそれぞれ29%と47%伸びているのが注目を浴びている。自動車部品や化学品、鉄鋼加工品、医薬品等ヨーロッパ諸国への輸出も増加傾向にある。メルコスール(南米南部共同市場)域内貿易でブラジルとの依存度が縮小され、市場の多様化にのぞめたことは大きな成果であると、同氏は経済誌で強調している(Fortuna,2003/12/22)。

2003年の輸出入額は440億ドル相当になると伝えられており、その内輸出が280億ドルと推定されブラジルへの輸出額が37億ドル、チリが29億ドル、中国22億ドル、アメリカ20億ドル、オランダ&ベルギー9億ドル、イタリア8億ドル、メキシコ7億ドル等である(各国の数字は同年1月から10月間のである)。今年度も輸出先の成長率が上がると見込まれており(米国4%、欧州1.9%、日本1.4%、中国7.5%、中南米3.6%)、アルゼンチン全体の輸出増にも期待が高まっている。特に中国とブラジル、チリへの輸出がもっとも伸びるのではないかとアナリストはみている。

しかし、気になるもう一つの要素は、輸出の8割が100社あまりに集中していることであり、付加価値の少ない農産品が多いことである。政府は、輸出先を多様化するためと中小企業の輸出能力と市場開拓を促進するために輸出品目供給の情報提供サイト(<http://www.argentinatradener.gov.ar>)を立ち上げると発表した(12月10日)。

一方、輸入も03年下半期当たりから50%の伸びをみせている。資本財及び工業用の中間財である。輸入額は160億ドル相当で37%がメルコスール諸国から、20%がNAFTA諸国、そして19%がEUからである。

(編集部(c)JAM)

<http://www.promocion-ar.com/>

亜国外務省のサイトで市町村を紹介すると共に、自治体内企業の輸出オファー情報を提供するコーナーである。





正義党が改選後の連邦議会上下両院で過半数の議席を確保。  
MERVAL株価指数が史上最高値を更新し1,000ポイントを挟む展開に。  
対民間公的債務の再編はアルゼンチン政府と各国債権者との間に大きな隔  
たりがあり、いまだ具体的交渉開始の道筋が見えない状況。

(写真：Cabildo - 1810年独立運動宣言庁舎)

Informe económico - político proporcionado por TOKYO RESEARCH  
INTERNATIONAL del Grupo Banco Tokyo-Mitsubishi. Elaborado por el Dr. Ken-  
ichi Shiomi. <http://www.triltd.co.jp/>

### 「地方選挙で正義党が23州の内16州の知事と連邦議会上下両院で過半数の議席を獲得」

11月23日に行われたエントリオス州の選挙で2003年に予定されていた地方選挙は全て終了した。その結果、正義党が23州のうち16州で知事の座を獲得、又、上院定数の1/3と下院定数の1/2の改選を経た連邦議会でも上下両院（上院：72議席中41議席、下院：257議席中133議席－新聞報道ベース）いずれも過半数の議席を占め、正義党が基盤強化を果たした。

### 「市場動向～株価が史上最高値を更新」

株式市場では、景気回復の兆しから短期的な売り材料が少ない状況のもとでMERVAL株価指数は堅調に推移し最高値を更新、11月27日には史上初めて1,000ポイント台を付けた後1,000ポイントを挟んだ展開となり、12月末は1,071.9ポイントで引けた。為替市場は、11月末に掛けて一部銀行の従業員ストや米国市場の休場などで薄商いとなりペソ安に進んだが、その後は材料に乏しい中で動意少なく、1ドル＝2.9ペソを挟んでの値動きに終始した。

### 「対民間公的債務再編交渉の現状」

アルゼンチン政府が発表した元本の実質75%削減を骨子とする公的債務再編計画に対し、米国の機関投資家を中心とした「アルゼンチン国債債権者委員会（ABC）」は12月3日、債務削減率35%及び延滞利息の即時支払いなどからなる債務再編の代替案を提示、両者の間には大きな隔たりが生じている。又、IMFとの中期経済プログラムに基づき11月に実施された第1回マクロ経済レビューが未だ承認されていないが、その背景には民間との債務交渉問題が関係しているとも報じられており、対民間公的債務再編交渉はアルゼンチン政府と各国債権者に更にIMFを巻き込んで、不透明感が一段と増してきている。

### 「2004年1月1日から最低賃金を350ペソに、年金の最低支給額を240ペソに引き上げ」

11月11日、アルゼンチン政府は、2004年1月1日から最低賃金を350ペソとし、年金の最低支給額については220ペソから240ペソに引き上げることを発表した。又、民間企業従業員に対する特別手当（社会保障料負担の無い手当）については同日からは50ペソを支給することを定めた。

最低賃金引き上げについてはおよそ3,400千人が、年金支給額引き上げは約2,056千人が対象となる見込みであり、消費の刺激と景気拡大を目指した措置としている。

### 「2004年度予算案可決」

11月26日、連邦議会は2004年度予算案を承認した。歳出は597億ペソ、歳入は620億ペソで財政収支は23億ペソの黒字の見込みである。同予算はインフレ率：9～11%、経済成長率：4%、為替：1ドル＝3ペソなどを前提としている。尚、首相に対して予算項目の変更などの権限を認める点で急進党が激しい反対を唱えたが、最終的に総論での承認となった。

### 「流動性預金に対する中銀準備率引き下げ」

中銀は11月27日付け通達A4051で12月1日から金融機関の流動性預金に対する中銀準備金の準備率を23%から20%へ3%引下げを決定した。当局としては、この措置により金融システム全体で約80億ペソの資金が準備金対象から外れ、これが中堅中小企業向け融資に還流する事を意図している模様である。

### 「11月の税込前月比+27.3%の6,393.8百万ペソ～19ヶ月連続で前年同月比増加」

12月1日の国税庁（AFIP）発表によると、11月の税込は前年同月比+27.3%の6,393.8百万ペソで、年間累計では前年同期比+43.5%の65,522.5



百万ペソに達した。これで19ヶ月連続前年同月を上回り、又、今年5月の史上最高徴税額を記録して以降11月まで月間徴税額が6,000百万ペソの大台を維持していることは、景気の回復と税収増加傾向が安定してきたと見る向きが強い。付加価値税（前年同月比+33.4%）や所得税（同+24.0%）の伸びが全体の税収増に寄与している。

### 「議会が最高裁判所判事を罷免」

12月3日、上院がモリネ・オコネル最高裁判所判事の罷免を可決した。最高裁判事（総数9名）はメネム大統領時代に5名任命されていたが、これでナザレノ最高裁長官、ロペス判事に続き3名が退くことになる。尚、11月17日には最高裁判事暦約20年のペトラッチ判事が互選により最高裁長官に選出された（就任は2004年1月1日）。

### 「2003年1～11月のインフレ率+3.4%に止まるが、低所得者層の状況は未だ厳しい」

国家統計調査院（INDEC）発表の消費者物価上昇率は9月が前月比不変、10月+0.6%、11月は+0.2%で、年初から11月までの上昇率は+3.4%となった。2003年の年間インフレ率は最終的に4%を下回るものと国家統計調査院は予想している。しかし、貧困層の基準となる基礎食料品価格を見ると、経済危機発生時点の2001年12月から2003年11月までで+74.1%とその間のインフレ率45.8%を大幅に上回っており、低所得者層にとっては引き続き厳しい状況が続いている。尚、卸売物価については9月の-0.15%に対し10月は0.6%、11月は1.0%上昇したが、年初からは+0.2%に止まっている。

### 「2003年1～11月の工業生産指数前年同期比+16.6%」

12月23日の国家統計調査院（INDEC）発表によると、11月の工業生産指数は前年同月比+18.4%であった。1～11月では前年同期比+16.6%となり、業種別では繊維部門（+74.5%）、工業用金属機械部門（+57.5%）、セメント（+31.9%）、出版印刷部門（+21.5%）などが生産指数の上昇を支えており、特に輸入代替産業を中心とした生産が拡大していることを示している。

### 「2003年第3四半期の経済成長率前年同期比+9.8%」

12月19日の国家統計調査院（INDEC）発表によると、2003年第3四半期の実質GDP成長率は前四半期比+2.8%であった。前年同期比では+

## 佐々木 幹夫氏、（三菱商事社長、日亜経済委員会委員長）アルゼンチン訪問



佐々木 幹夫氏をはじめとする一行13名は2003年11月3、4日ブエノスアイレスを訪問し政府ならびに民間関係者と両国の関係強化、進展に関し意見交換を行った。概要に関し東京商工会議所より下記聴取したのでご報告する。

### —1—ラバーニャ経済・生産大臣

経済成長率、インフレ率、財政赤字、為替、銀行融資等々についての現状の説明がありアルゼンチン経済が既に回復基調にある旨発言あった。

日亜関係についても、もはや調査や検討の段階ではなく両国企業間で具体的な行動を起こしてゆく時期であり、実際の協力の具体事例を実現して欲しい。

現在、貿易面では中国がアジアに於ける最大の輸出相手国となっているが、日本のみならず東南アジアにおける市場拡大のために日本がはたせる役割は重要であり、貿易、投資を促進するため障害になる問題があればお互いに議論し解決してゆきたいとの意向が強調された。

### —2—デビド公共事業大臣

公共投資計画、特に道路、鉄道網の建設・改修プロジェクトや太平洋へのアクセス整備構想について説明があった。

対外債務問題で政府の資金調達が難しいので民間投資を活用して行く計画の由。国内資本だけでなく外国資本にも是非参加してほしい。日本からも鉄道網の整備などのプロジェクトへの参加を期待している。

2004年上半年にキルチネル大統領の訪日を実現したいとのコメントあり。

### —3—タイアナ外務次官（外交政策担当）、レドラド外務次官（通商・国際経済担当）

（ピエルサ外務大臣が病気のため両次官と面談）

アルゼンチンの最新の経済情勢、財政・金融政策、外交政策について説明された後対外政策のなかでも日本との関係強化を重要と考えているので今回の訪問が両国の貿易関係拡大に資することを期待するし外務省としても出来るだけの協力をしたい。

### —4—亜国商業会議所、在亜日本商工会議所との懇談

両国経済関係の緊密化に向け、2001年に両国経済委員会の下に日亜基本戦略研究会を設置し、基本戦略の策定を計ってきた。この結果を踏まえ今回の懇談内容をもとに、農水産、鉱業、ITの三分野について問題点の煮詰め、アクション・プランの策定を行うこととした。

FTAA（米州自由貿易地域）の形成やメルコスール（南米南部共同市場）とEU間のFTA交渉が進展してゆくなかで日本だけがこのような動きに乗り遅れぬように将来の日本・アルゼンチンないしメルコスールとのFTA締結を視野に入れ在亜日本商工会議所と連携を密にし検討して行くことにした。

（文責 豊田潤一 理事）



9.8%となり3四半期連続プラス成長を記録、項目別では、民間部門消費+10.4%、公共部門消費+1.9%、粗固定資本形成+42.7%、財・サービス輸出+4.3%といずれも前年同期比増加した。

2003年度累計(1~9月)は前年同期比+7.7%となった。尚、11月25日の企業経営者との会合でラバーニャ経済大臣は2003年の年間経済成長率の見通しとして実質7.3%を予測していると述べた。

### 「2004年の一人当り国内総生産は3,662ドルの見込み」

コンサルタント会社ECOLATINA社の試算によるとアルゼンチンの2003年の一人当り国内総生

産は3,360ドル、2004年は3,662ドルになる見込みである。1999年は8,150ドルとラ米で最も高い水準にあったが、現在はブラジル(2,970ドル)とコロンビア(1,700ドル)を上回るが、メキシコ(6,200ドル)、チリ(4,950ドル)及びベネズエラ(3,757ドル)を下回っている。

### 「2003年第3四半期の失業率16.3%」

国家統計調査院(INDEC)は12月23日、従来に比べ就業間もない労働者数を考慮するなど、より実態を反映した新たな算出方法で失業率を発表した。従来方式と新方式による直近の失業率推移は以下の通り：

### 大豆が頼り？

¿La soja es la salvación o una alternativa más?

昨年、中国などへ大豆の輸出が非常に伸びており、アルゼンチンは、1千8百万トン(全生産の8割程度)を海外に売り、66億ドル稼いだとされている。総輸出額の約2割に相当しており、大豆依存率が高まっていることに懸念の声もでている。

亜国の大豆栽培面積は1千2百万ヘクタールで1ヘクタールの種子代と栽培費用が約40ドルで3トンも生産することができる。トウモロコシと小麦については3百万ヘクタールづつの生産であり、1ヘクタールのコストが200ドル以上である。また、大豆栽培の8割は前年の種子を使用しており生産コストが更に安くなっている。バイオテクノロジーや遺伝子組み替えの種子、除草剤等の使用によって効率の良い生産をしていることで、年間7~8千万トンの生産も可能だとされている。

しかし、農業技術研究所-INTAの最新レポートによると、このままでは危険なモノカルチャー(一種類の農作物に依存する現象)状態になりかねなく、土壌の消耗も取り返しのつかない事態を招く恐れがあると警告している。土のロテーション及び環境と調和した生産方式を採用していかなければ、いずれ栽培地の縮小につながり、他の穀物も栽培できない危険性もあると危惧されている。雑草や害虫に強い遺伝子組み替え大豆の栽培はここ8年間で農業生産者に50億ドル以上の節約をもたらしているが、エコシステム全体への影響はかなり大きいと指摘されている。このような議論が展開する中、大手多国籍農業開発業者モンサント社がアルゼンチンの大豆ビジネスから撤退すると発表した。遺伝子組み替え種子の開発に携わってきたが、市場で使用されている大豆の種子50%は違法で、32%は農家採取のもので、18%のみが正規のものであるため、技術開発に投資した元がまったく回収されない状態が続いているためだという理由のようである。

一方、こうした大豆ブームに便乗して目立っているのが地価高騰である。ブエノスアイレス市から北西400キロに位置するベルガミーノ周辺の土地は、1ヘクタール4,800ドルにまで上昇している(2003年に50%も上がっている)。内外の投資家の的にもなっているが、大豆栽培に最も適した販売可能な土地はもうほとんど存在せず何らかの形ですべて押さえられているようである。ブエノスアイレス州南南西部当たりの小麦栽培地の価格も1,700ドルにまで上昇しており、ここ一年で40%近くも値上がりしている。

世界の食糧需要は高まる一方で、アルゼンチンのような国には大きなチャンスとみることができるが、大豆以外は、生産/輸出率はそう高くないのが現状である。例えば、小麦の場合は58%、トウモロコシが64%、米が38%輸出されているが、牛肉の場合は殆どが国内で消費されており(年間一人当たりの消費量が60キロ)、輸出向けはわずか15%である(鶏肉は5%、羊肉はゼロに近く、豚肉はブラジルなどから輸入している)。その他、乳製品は10%、砂糖15%、果物類が増加傾向になっており、リンゴが19%、洋ナシが53%、レモンが22%である。(編集部(c)JAM)





## アルゼンチン：2004年の予測 - Perspectivas para el 2004

どの国でも年末になると次の年の経済予測がでてくるが、一般紙、専門経済誌に掲載されているエコノミストやシンクタンクの予測は下記の通りである。

- 経済成長率：5.5%～6.0% (1.450億ドル規模の経済を予測)
- 一人当たりGDP：3,600ドル (2003年は3,200ドル)
- 輸出の伸び率：6%～8%、輸入：20～35%。  
2003年と同じぐらいの黒字確保可能 (130億ドル)。
- インフレ率：6%～8%
- 投資：15～20%増
- 為替レート (1ドル)：2,90～3,20ペソ
- 失業率：13,5～16,5%
- 外貨準備高：GDPの約10%。



**課題：**税収増と経済成長による収入をどのように利用するかが大きなネック。海外からは債務不履行になっている債務の支払要求の圧力が高まり、国内からは州政府や政治団体、財政出動で恩恵を受けている産業等からパイの分配増圧力がかかってくる。大豆等穀物の国際価格の水準が維持されるか否かにもよるが、メルコスール内での取引にはまだ不安定な要素もかなりあり (ブラジル経済の行方)、確実に成長が保障されるものではない。債務問題についても、9月頃ぐらいからはIMFの圧力も増してくることが予想され、不履行になっている812億ドルの債券問題も今の75%削減策を撤回させられる可能性も十分にある。輸出も、真の競争率を高めなければ一年後は、あまり大きな実績にはならないという指摘もあり、主要輸出産業をはじめ輸出可能な事業への投資がポイントになる。ペソ安という為替メリットだけでは、市場の開拓ができてその需要に対応できるだけの生産能力を維持できないのではないかと警告も産業界からある。また、個人所得が多少増えても、全体の所得配分にこれ以上格差が拡大したり、非効率な分配 (失業対策の助成金等) が続けば一人当たり主に市場の半分を占めている低所得者層の購買力はこれ以上上がらないとされており、国内消費にも影響がでてくる。(編集部(c)JAM)

出所：El Cronista, Ambito Financiero, La Nación, Noticias, Fortuna, Mercado等。

新方式	従来方式
2002年第4四半期： 20.8%	2002年10月： 17.8%
2003年第2四半期： 17.8%	2003年5月： 15.6%
2003年第3四半期： 16.3%	2003年8月： 14.3%

今回発表の失業率は16.3%であるが、就業者とみなされている失業対策助成金受給者を含めると失業率は21.4%程度になると試算され、不完全雇用を含めると32.8%の約5.2百万人が依然として雇用問題を抱えている状況にある。

### 「03年1-11月の貿易収支146.5億ドルの黒字」

12月30日の国家統計調査院INDEC (INDEC) 発表によると、2003年1～11月の輸出累計額は26,966百万ドルと2002年度年間輸出額25,709百万ドルを既に上回ったが、一方で輸入が引き続き回復基調を辿っており、11ヶ月累計で前年同期比+50%の12,310百万ドルを記録した。その結果、11ヶ月累計の貿易黒字は14,656百万ドルとなり、前年実績を若干 (-5.5%) 下回っている。

**NAFTA10周年：**北米自由貿易協定は1月1日で10年になり、加盟国はアメリカ合衆国、カナダ、そしてメキシコである。設立後、域内貿易も伸びており、経済の成長及び一人当たりGDP増にも寄与しているが、メキシコの場合、所得格差が一層拡大してしまい富が人口の1割に集中してしまったという批判が続出している。域内貿易にもまだ課題は多く残されており、他の地域との協定も目立っている今、これからの交渉に注目が集まる。また、南北全体を巻き込むアメリカ主導の自由貿易圏構想とも重複する部分の調整も今後続けられることになる。メキシコのモンテレイで開催された米州サミットでは、アメリカは同構想を2005年1月1日からの発効を求めたが、アルゼンチンをはじめ、ブラジルやベネズエラ等は先にアメリカの農業への補助金削減又は撤廃が必要だと主張し、反対意見が主流になった。また、参加国の殆どは、米州大陸全体の自由貿易という構想は現時点ではあまりにも非現実的であるという考えである。

**MERCOSURの準加盟国とアンデス共同体：**ペルーが準加盟国になったことでアンデス共同体との関係強が注目されていた中、12月16日、モンテビデオで開催されていた第25回メルコスール首脳会議で、地域間自由貿易協定が締結された。今年の4月から施行されるが、90日以内に段階的に関税を引き下げていく品目のリストを作成しなければならない (はじめから関税ゼロの品目、10年以内と15年以内にする品目のリスト) が、両地域間で取り引きされている輸出入品目の優先順位を定めなければならないのである。大変困難な作業が予想される。



## ■年末のブエノス：観光客であふれる

Muchos turistas en Buenos Aires



ドルに対してペソが安くなっていることで物価も安くなっているが、こうした要素とブエノスアイレスの魅力

が多く、外国人観光客を呼び寄せている。昨年10月頃から数十万人単位で周辺諸国から来ているが、11月には約65万人が到着、12月には80万人を超えたと発表されている。6割近くが近隣諸国（23%がウルグアイ、チリが13%、ブラジルが10%）からであり、22%がヨーロッパ諸国（スペインが8%）、アメリカやカナダから8%等である。市内での平均宿泊日数は6.5泊であり、1日の最低支出がおおよそ70ドルとされている（宿泊も3星から4星がメインで一泊約30~40ドル）。

5星ホテルも70%以上の稼働率を記録し、全体としてホテル業界は潤っている（高級ホテルでも平均料金が下がっており、100ドル相当の水準になっている。交通の便利が良い都心部の4星ホテル等は年末は満室状態であった）。

市観光当局によると、夏休みシーズン（12月~2月）だけでも150万人の外国人観光客が訪れるとみていることで、観光客に親切に対応するようキャンペーンも行っており、懸念の治安維持には同市を管轄している連邦警察官600人を増員してレストラン等を重点的に警備している（12月のはじめ、高級住宅街でレストラン強盗が発生したことで配備されたとのこと）。

一方、市内に住んでいるporteño(ブ市民)たちは、クリスマス明けに多くが夏のリゾート地に向かった。マルデルプラータをはじめ周辺ビーチやコルドバ（中部）、ミシオネス（北東部）、サルタ（北部）等へのバスや列車はすべて満席で、30日あたりは、ブエノスアイレスのレティーロバスターミナルからは1,600台の大型バスが各地方に出発した。一日に5~6万人が市をでたという計算になる。

今年は海外に出たアルゼンチン人も多く、特にブラジルへの旅行が目立つ。経済危機以前は年間100万人以上が行っていたが、その後は半分以下に減り、それでも2003年には60万人に回復したとブラジル観光当局は推定している。半分近くが車で国境を越えるため、出入国の通過点には3キロ余りの車の行列ができるほどである。

ブラジルも通貨レアル安で物価が安くなっており、普通のビーチリゾートで過ごすのであればアルゼンチンで過ごすよりも安く過ごせるということである。また、アルゼンチン人観光客の方が（ブラジルで）ブラジル人観光客より（アルゼンチンで）2倍以上お金を使うという調査結果も報告されている。

**参考：**ブエノスアイレスを訪れる外国人観光客の注目は、歴史的建造物が多い市内観光や牛肉レストラン（パリージャ）での食事、映画館や劇場での観賞である。文化都市として、市内には映画通り（ラバージェ通り）と劇場通り（コリエンエス大通り）があるが、特に中南米諸国からの観光客は演劇やミュージカル、大型コンサートを最も楽しみにしているという。

そうした中、1月に入ってコロソ劇場で大掛かりな修復工事がはじまった。内外の工事で11カ月にも及ぶものだと関係者は話している。70年代にも拡張工事を



行っているが、1908年の建設以来もっとも大掛かりな工事である。内部は、火災防止装備や舞台の自動移動装置の設置、職員食堂、カフェテリア、ショップ、チケット販売窓口等の改装を行うことによってもっと使い勝手の良い文化施設にするとされ、市民や観光客への場内ガイドサービスも更に充実した内容になるようである。

余談であるが、今年度のプログラムは全て予定通り行われると発表されている。

<http://www.teatrocolon.org.ar/>

\*\*\*\*\*

## ■アルゼンチンのリゾート温泉施設

Termas de Entre Ríos, una nueva atracción

アルゼンチンで温泉（Termas テルマス）というと治療用の医療施設というイメージが強く、昔からリハビリ患者や年輩者の行く場所と見なされてきた。日本のような温泉旅館というものは存在しなかった。しかし、90年代に入って、エントレリオス州では、次から次にリゾートタイプの温泉施設がオープンした。1994年、ウルグアイ川に面したフェデラシオン市に大きな総合温泉施設が誕生した。9つの温泉プールで構成されており内3つはインナープールである。温度も37度から41度である。サウナやリラックスマールーム、エステ施設も完備されている。温泉も1.260メートルから採っており、一時間に45万



リットルもでている。日本と違ってすべてのプールには水着で入ることが義務づけられている。また、宿泊施設はなく、市内



のホテルに泊まるしかないのだが、レストランや歴史的建造物が多数存在する。周辺のエステンシア（牧場）や別荘に泊まることもできる。この街には、カジノもあり、無休で夜の9時から午前3時まで営業している（掛け金が限られておりルーレットの場合一回につき最高5ペソ、440円相当であるので安心である）。

温泉施設の営業時間は午前8時から午後11時迄である。



このフェデラシオン以外にも同州内には、チャハリ、ビジャエリサ、コロン、コンコルディア、ラパス、合計6つの街に同じようなリゾート温泉施設がある。一日入場料が大人4ペソ（150円相当）、児童と年金生活者が2ペソである。

<http://www.termasdeentrierios.com/federacion/>

## ■ハーブティー系の飲料水登場

Bebidas en base a hierbas

食卓で出てくるワイン以外の飲み物といえばコーラやジュース系、ミネラルウォーターぐらいだが、最近グルメの一環として緑茶（te verde）やハーブティーがメニューに載っている。カチャマイやマンサニージャ等食後に飲む温かいお茶ではなく、冷やしたお茶なのである。日本と言うとウーロン茶や麦茶のような感覚で飲むお茶なのである。

コカコーラ社は、「Nativa」という飲み物を市場に出した。マテ茶に少し炭酸と砂糖を入れているのだ。かなり飲みやすくマテの味なのでアルゼンチン人からみても違和感がないようだ。



そして、もう一つは、セパスアルヘンティーナス社の「テルマ・デル・リトラール」という名称の飲料水である。5種類のハーブによって製造された飲み物であり、オレンジの香りとビタミンC豊富なアセロラが含まれている。

## ■Palermo soho（パレルモソーホー）というスポット

Un barrio transformado en la originalidad y en la diversidad

ブエノスアイレス市内には、外国人好みのスポットが歩行者天国になっているフロリダやラバージェ通り、劇場が密集しているコリエンテス大通り、旧港街のプエルトマデロ等多数あるが、ここ数年前から注目を浴びているのが、パレルモ・ビエホ地区のpalermo sohoとpalermo hollywoodである。コルドバ大通り5000番当たりで、市内中心部と違って昔からの住宅街である。普通のbarrio（”バリオ”：下町の住宅地区）で、のどかな雰囲気が特徴であるが、今はレストランやギャラリー、工房、アルゼンチン各地の郷土料理等の店でとても活気のある地域になっている。

パレルモ地区のホームページ（<http://www.palermonline.com.ar/gastronomia/index.htm>）をのぞくと、イタリアン、フレンチ、メキシカン、地中海、中華、アラブ、ビザ&パスタ、キューバ、日本、タイ、インド料理等のレストランが案内されており、アイリッシュパブや自然食品（有機素材）料理、精力増進のメニューやカクテルを提供する店まで紹介されている。また、palermo hollywoodという地区には、女性向けの店が多く、このサイト「<http://www.emporiowoman.com.ar/>」では、オーダーメイドTシャツ、オブジェ、デザインロウソク、特産リキュールのデザインボトル、カバン、エステ等の情報が満載である。



レストランをはじめ、ほとんどの店が個人事業であり、各オーナーの好みやこだわりが目立つが、今は一つの刺激的な情報発信地になっており、定期的に共同で無料配布の冊子「palermo」を発行しており、インターネットのホームページも皆が負担しながらサイトの維持につとめている。

(編集部(c)JAM)



横浜・ノルマ氏 (Norma Yokohama de Montelatici)は日本の文化を茶道(裏千家の流派)によってアルゼンチンで伝え、多大な貢献をしてきたことで、日本政府から昨年、勲五等瑞宝章を受章した。一時帰国した賀集イレーネ理事が同氏の自宅を訪れインタビューした(2003年6月現在)。

ノルマさんはブエノスアイレス市内のベルグラノー地区に住んでおり、周囲は高いビルがあるものの自宅は小さな緑のオアシスのような所です。

ブエノスアイレス大学文学部を優秀な成績で卒業したが、金メダルは「男性が取ったんです。成績はまったく同じだったのですが、当時女性が金メダルを授賞するのは、考えられないことでした。でも、私の父は違いました。彼は考え方が進んでいましたので、女性を正しく評価することができたのです。フェミニストだったのです。」と答えながらインタビューを始めたのです。

— どのようなきっかけで茶の湯の世界に入りましたか？

一九五四年に十五代の千宗興先生がブエノスアイレスに来られたのです。ここには畳みも茶道具も何もなくあったのですが、父は必要なものを何とか手に入れたのです。そして、この家の一階でアルゼンチン最初の裏千家茶の湯のデモンストレーションが行われたのです。私はたいへん大きな衝撃と感動を受け、それから本格的に茶道の勉強をはじめたのです。十四年後初めて「千利休と茶の湯」について講演をしました。

— 七〇年代と九〇年代に来日されたのですね。その間、日本人、特に若い人たちはすごく変わったと思いますか？

ええ、変わったと思いますが日本人だけではなく、我々も変わりました。今の若者は髪の毛を染めたりしますね。金髪に染めた女の子も見ましたよ。ただの流行ですよ。ヒッピーもヤッピーに変身しましたからね。私は若者が伝統的文化を失っているとは思いません。もう亡くなりましたが、東洋学専門家のキーレス神父が言っていましたように「日本人は洋服を着ているが、ちよつとひっかくと、日本人が見えてきます」。日本人は衣類や外面的な部分を変えても中身は今でも日本人であ

るということなのです。  
— なぜこんなに茶の湯に惹かれたのですか？

多くの真実や守らなければならぬ大切な価値観を持っているからです。生徒にはいつも四つの重要な言葉を教えています。それは、和、敬、清と寂です。「和」は調和、「敬」は尊敬、「清」は清浄、「寂」は安らぎを意味しています。「和」は人との間だけではなく、植物、動物、そして自然との調和を目指しています。これからは益々環境問題やその保護の重要性が認識されてくると思います。戦争もお茶の世界を通じて、お互いに会話をすることで避けられるかもしれません。

私は日本を愛していますし、とても尊敬しています。私は東洋と西洋、日本とアルゼンチンの一種の接点のようなものです。ですから、勲章は両国の友好関係がいつまでも続くようにと願う私の気持ちを反映したものだと思います。



注1) ノルマさんの父親、横浜健吉は、1920年代にアルゼンチンに移民してきたのである(ノルマさんの先祖家系図によると、健吉の祖父は武士で敦賀の町奉行だったとされている)。母親はイタリア系アルゼンチン人でマティルデさんという方である。父親は日本や中国からの壺や食器を輸入するかたわら、自ら絵を描いたり詩を書いたりした。母親は、唱歌を習っていて、亜国内各地及びチリやウルグアイでコンサートに参加していた。日本の唄をアルゼンチンで紹介した第一人者でもある。ノルマさんの姉オルランダも文化の世界で活躍し、アルゼンチン東洋美術国立博物館の館長として業績を残している。ノルマさんは家庭環境からみても小さい頃から東洋と西洋の交流を肌で感じ、1950年代から茶道の世界に入ったのである。今日まで、長年にわたって日本文化普及のため、茶道や日本の風習、明治維新の近代化プロセス等広範囲にわたって大学や日本大使館文化センター等で公演や講義を行ってきた。また、多数のラジオ番組にも出演し、地元活字メディアにも日本関連の記事を掲載してきた。

注2) 取材&写真提供：賀集イレーネ理事 (c) Irene Gashu



■「祖父母,母の故郷での研修」 Becaria nikkei por la Prefectura de Iwate:capacitación en biotecnología.  
古賀 ナタリア-Natalia KOGA (Estudiante de Agronomía en la Universidad Nacional de La Plata)

私はブエノスアイレス州、ラプラタ市所在の国立ラプラタ大学で農業の勉強をしています。昨年7月から休学して、県費研修生として岩手県にやって来ました。花卉栽培とキノコ栽培の勉強をするためです。11月までは岩手県の金ヶ崎町(胆沢郡)にある県立花卉センターで花の栽培や植物バイオテクノロジーの研修を受け、12月から帰国する3月までは林業技術センターでキノコ栽培の勉強することになっていますので、今キノコざんまいです(こんなに種類が多く美味しいとは...)

日本の生活にも慣れ、岩手県に来て研修だけではなく、季節ごとに行われる地元祭りにも参加しながら、日本の文化や風習にも触れることによって新しい発見をたくさんさせてもらっています。

岩手県も自然に恵まれているところで住民は貴重な緑を大切にしようと様々な運動や活動を行っています。また、この地域の大きな拠点地である盛岡市には多くの外国人が住んでいるため、ここで暮らしている日本人達は、外国人との付き合いになれているようで、とても親切にしてくれています。



岩手県は、私の祖父母と母の生まれたところですので、このような研修プログラムによって訪れることができたのは夢のようです。小さい頃から良く故郷の話は聞いていたのですが、実際来日するまでは想像でしかなかったのです。今はとても感謝するとともに、ほんとうに良かったと思っています。

研修も先生たちをはじめ、みんながとても丁寧にいろいろと教えてくれますので、有意義な毎日を送っています。日本は、すべてに機械設備や施設がとても充実していますので、花卉栽培にしても、キノコ栽培もすごい技術力によって育てられているのだと実感しています。アルゼンチンでは、ここまで整えることは難しいかと思いますが、私なりに日本で得た知識を参考にしながら工夫を重ねて両親のいるラプラタで頑張りたいと思っています。

後二ヶ月余りですが、この貴重な機会を無駄にする事なく寒さに負けず励んでいきたいと思っています。

**KOGA NATALIA:** アルゼンチン生まれの日系二世、国立ラプラタ大学農学部大学生、現在岩手県県費留学生として同県に在住(2003年7月~2004年3月)。3月17日に帰国予定。 写真:本人提供(右から2番目、研修先にて)

Natalia está regresando a mediados de marzo para continuar sus estudios en la universidad.

●2003年秋の叙勲

Condecorados por Japón - Otoño 2003

在外邦人アルゼンチン共和国在住の叙勲者

■旭日双光章 元在亜日系団体連合会会長  
多和田 真昭(72歳) Masaaki TAWATA

■旭日単光章 元ブルサコ日本人会会長  
新里 勇(73歳) Isamu SHINZATO



両者は、各日系団体で長年様々な役職に付き、多大な功績を残したことで日本から叙勲され

た。

この祝賀会は、在亜日系団体連合会及び在亜叙勲者会の共催でCOA本部ビルで行われた。

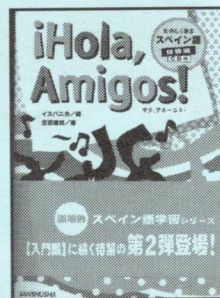
(写真、(c)JAM,2003年12月19日にて)

■刊行物紹介

スペイン語の学習書「オラ・アミーゴス！」

「たのしく学ぶスペイン語」は、昨年春に出版した入門編に続き、11月に初級編が出版された。

この1冊をクリアすれば、現地に住んでも困らないレベルのスペイン語が習得でき入門編よりもさらに用例や練習問題が充実している。現地に赴任される方、そのご家族の方々、スペイン語に関心のある方々にも適している。



- 書籍名: ¡Hola, Amigos! オラ・アミーゴス 楽しく学ぶスペイン語 初級編
- 定価: 2600円(税別) CD付き
- 編者: イスパニカ/著者: 吉田理加/発行: 三修社
- ISBN: 4-384-05182-4

お求めは全国の書店、またはイスパニカまで。

(有) イスパニカ 井戸光子

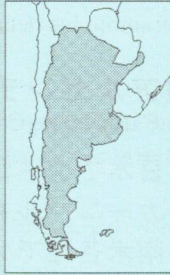
Tel.03-3630-9711 Fax.03-3630-9717



## アルゼンチン在留邦人数

Número de japoneses en la Argentina

外務省領事移住部が毎年発行している「海外在留邦人数調査統計-平成15年版」によると、アルゼンチンに住んでいる日本人は、11,461人である（男：6,065、女：5,396）。現地に定着している永住者が10,798名で3カ月以上の滞在で永住者でない長期滞在者が663人である。永住者には日本から以前移民した者も含まれているが、企業関係者で都合上永住者になった者も含まれている。永住者の場合、ブエノスアイレス市（3,717）と州（5,241）を含むと9割が集中している。コルドバやサンタフェ、ミシオネスに平均160名が居住している。そして、長期滞在者の場合は、約7割がブ市内に住んでおり、2割近くが郊外又は州内に住んでいる。



平成14年、663人の長期滞在者の詳細は、民間企業関係者161人（同居家族：156）、報道関係者1人（同：3人）、自由業関係者8人（同：7人）、留学生・研究者・教師68人（同：23人）、政府関係職員57人（同：63人）、その他78人（同：38人）である。

参考：ブラジルの在留邦人が72,343人（長期が2,365人で永住者が69,978人）、パラグアイ3,721人（310/3,411）、ボリビア2,759人（333/2,426）、ペルー1,531人（362/1,169）、コロンビア1,345人（361/984）、チリ1,070人（625/445）。

## 日本在留アルゼンチン人数

Número de argentinos en Japón

在留外国人の人口は全体の1.45%で185万人に相当するが、そのうち、アルゼンチン国籍の登録者数は、3,470名である（男：1,868人、女：1,602人）。南米からは334,602人が日本で生活しており（多くが90年の入管法改正で入国滞在が認められた日系人である）、ブラジルから268,332人、ペルーから51,772人、ボリビアから4,869人、コロンビアから2,989人、そしてパラグアイから1,895人である（全て平成14年12月の統計によるものである）。

在留資格別からみると、約1,200人が日系2世（日本人配偶者等のビザ）で720人が3世（定住者のビザ）であると推測できる。また、全体の3分の1は永住資格を取得していることも判明している（他300人ぐらいの二重国籍をもった日系人は日本国籍者として日本で就労・生活しているとされている）。専門分野では、大学で教えている教授が8名、アーティストが9名、国際業務に就いているものが19名、企業内転勤者が15名、留學生が75名等である。

都道府県別では、神奈川県に984名、愛知県409名、静岡県355名、東京都334名、群馬県273名、埼玉県205名、栃木県132名、茨城県84名、沖縄県82名、三重県53名などである。青森県、岩手県、徳島県にはそれぞれ1名であり、愛媛県、山口県、そして佐賀県に2名である。

神奈川県が一番集中しているが、湘南台地区の藤沢市に337人（204世帯）、そして横浜市に207名が登録されている。



## ■JICA日系社会青年ボランティア：6人の若者がアルゼンチンへ

JICA国際協力機構は、開発途上国の技術協力以外にも中南米諸国を中心に日系人社会への支援も行っている。当初（昭和60年）は、日本の青年の海外移住を促進する目的でスタートした「海外開発青年」プログラムがニーズの変化によって平成8年から日系人社会を支援する事業として再編され、「日系社会青年ボランティア事業」として実施されているものがある。平成14年度までの実績は768名（内456名が女性）の派遣で、アルゼンチンには101名（内67名が女性）が派遣されてきた。

平成16年度には、6名が2月頃に派遣される：1) 小田絵理名（33才、コルドバ日本人会、日系日本語学校教師）、2) 森田しのぶ（29才、サルミエント日本人会、日系日本語学校教師）、3) 福島陽子（29才、ミシオネス日本人会、日系日本語学校教師）、4) 佐藤知子（23才、メルコ・フロール農業共同組合、システムエンジニア）、5) 大草真紀（26才、在亜日本語教育連合会、団体事務）、6) 熊倉克敏（21才、ラプラタ日本人会、野球指導）。

現地での活動期間は2年であり、受入機関へのサポートが主な任務である。派遣前には約2ヶ月間にわたってJICA横浜国際センターで訓練を受けており、語学（スペイン語若しくはポルトガル語）をはじめ、中南米諸国の文化・社会、日系人社会の歴史及び現状、異文化理解教育等を受講した。

Jóvenes voluntarias de JICA para la comunidad nikkeide Argentina. Este año 2004, en el mes de febrero, van a ser enviadas 6 jóvenes, 3 como maestras de idioma japonés (escuelas de Córdoba, Sarmiento y Misiones), una ingeniera en sistemas (Cooperativa MercoFlor), una administrativa (Kyoren) y un joven instructor de beisbol (La Plata).





## ■藤沢でのアサード

Asado "argentino" en Fujisawa

昨年11月2日、連休の日曜日に日本アルゼンチン協会主催のアサード（アルゼンチン風バーベキュー）が行われた。藤沢市慶応大学キャンパス近くの「観光果樹園」というガラスハウスで行い、牛肉やサラダ、エンパナーダ（ミートパイ）等の手配はナカダカリ・リカルドさんに依頼して実施した。牛肉などは、アルゼンチン風にゆっくり炭で焼いてもらい、ブエノスアイレスの週末を想わせる雰囲気であった。約40人が参加し、食事の後は、アルゼンチン産の蜂蜜、ワイン、そしてドウルセ・デレーチェ（ミルクジャム）の抽選会を行った。



Asado organizado el pasado 2 denoviembre por nuestra Asociación, en donde concurren casi 40 personas. La carne es australiana, pero, gracias al amigo Ricardo Nakandakari, se ha podido hacer un buen asado de costilla a la argentina. Al final de la reunión se han sorteado vinos, miel y dulce de leche argentinos.

\*\*\*\*\*

## ■大城バネサさんのミニアルバム発売

Cantante argentina Vanesa OSHIRO - 1º Album

2001年に、ブエノスアイレスでNHKの「海外のど自慢アルゼンチン大会」が行われたが、その際優勝したのが、日系二世の大城バネサさんである（1981年生まれ、22歳）。その後、日本で行われた「チャンピオン大会」でグランドチャンピオンになり、これを機に歌手デビューした。昨年8月、「鷗も飛ばない海だよ」というテーマでスタートしたが、今年に入ってミニアルバム（全7曲）を出した（東芝EMI（株））。

JICA中南米部が発行している機関誌「海外移住」2003年12月611号、14頁記載のインタビューによると、現在、日本語の勉強に励んでおり、演歌一筋でいきたいと述べているとともに、将来の夢は祖国アルゼンチンでコンサートを開くことだと話している。

La cantante **Vanesa OSHIRO** que ha debutado el año pasado en Japón, ha lanzado a fines de enero, a través de TOSHIBA EMI, su primer mini-album con 7 canciones, incluyendo el de su estreno "Kamomemo tobanai umidayo".

## ■南極亜領土の日 Día de la Antártida Argentina

1904年から、アルゼンチンは、南極に基地を建設し、調査・研究活動を行ってきているが、それ以来一部を自国領土として主張しており、2月22日を「アルゼンチン南極の日」として定めている。

マランビオ基地には、陸軍のスタッフが年中滞在しており、その様子をホームページで紹介している。

<http://www.marambio.aq>

El día 22 de febrero se conmemora el Día de la Antártida Argentina, y en este año 2004 es el Centenario del mismo. Los interesados pueden leer en la WEB de la Base Marambio los detalles de esta histórica fecha.

## ■アルゼンチンの夏はカーニバル

Carnaval de Corrientes y Entre Ríos

日本でカーニバルというと、ブラジルのリオのカーニバルを思いつく方が多いと思うが、実は南米各地でカーニバルはあり、アルゼンチンでも特に暑い北東部では盛んなのである。有名なのは、Entre Ríos州、



Corrientes州のカーニバルで、開催時期は、おおむね1月中旬～2月末の間、1ヶ月間で、週末(金)(土)(日)の夜間に見応えのあるパレードが行われる。

キジやガチョウなど本物の鳥の羽毛などで手作りされた特別な衣装をまとった踊り子達や、華やかなパレード車が1キロ半の距離を行進する。衣装の作成には500～2000ペソもかかると言われている。カーニバルは、各町で夫々の特色があるが、地方の町々が観光客でいっぱいになる年に

### (社) 日本アルゼンチン協会 会員募集

日本とアルゼンチンに関係する情報を得る。  
文化交流の主役になり、イベントに参加する。  
互いの理解を深め、友好関係を育てる。

正会員	: 年会費 10.000円	Socio pleno
賛助会員	: 年会費 5.000円	Socio colaborador
学生会員	: 年会費 3.000円	Socio estudiante
法人会員	: 年会費 一口 30.000円	Corporativo

Tel: 03-3501-4684 E-mail: [argentina@nifty.com](mailto:argentina@nifty.com)

支払方法: 郵便振替又は銀行振込

○ 郵便振替: 0120-6-581381

社団法人日本アルゼンチン協会

○ 銀行振込: 東京三菱銀行 新橋支店

普通預金 0234478

社団法人日本アルゼンチン協会

●平成15年度請求の会費の支払をお忘れになっている会員の方々に対して、どうか年度内（3月31日迄）にお納めいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。事務局: 03-3501-4684（午後1時～5時）



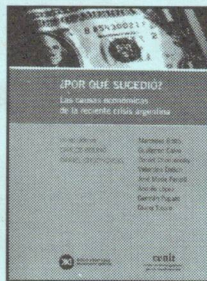
## ブエノスアイレスの書店で注目 されている出版物

今のアルゼンチンを理解するためには、歴史的、社会学的、政治学的、経済・金融学的に様々な観点からのアプローチが必要であり、ここ数ヶ月の間に二年前発生した経済危機に対する分析や説明を記載している内容の書物が出版されている。一部、紹介するが、すべてスペイン語のみである。



### Diálogo sobre la globalización, la multitud y la experiencia argentina.

Antonio Negri y otros. Editorial  
Paidós. 2003  
ISBN 950-12-6535-8



### ¿POR QUE SUCEDIO?

Las causas económicas de la  
reciente crisis argentina.

Carlos Bruno, Daniel  
Shudnovsky y otros.  
Siglo XXI de Argentina Editores  
y CENIT. ISBN 987-1013-18-3



### LA MALDITA HERENCIA

Una historia de la deuda y su  
impacto en la economía  
argentina: 1976-2003.

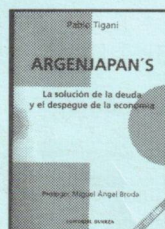
Martín Kanenguiser  
Editorial Sudamericana  
ISBN 950-07-2443-X



### RUPTURA Y RECONSTRUCCION

Lo que la experiencia argentina  
nos enseña

Laura Bertone, Patrick Lagadec  
y el testimonio de Xavier  
Guilhou. Editorial EVOLUCION  
ISBN 987-21049-0-5



### ARGENJAPAN'S

La solución de la deuda y el  
despegue de la economía.

Pablo Tigani, con prólogo de Miguel  
Angel Broda. Editorial DUNKEN  
ISBN 987-02-0137-7 (英版有り)

1度の大イベントだ。

情報源及び参考サイト：

<http://arteargentino.info/prov/corrientes/x-tc1.htm>  
<http://www.liveargentina.com/CorrientesFIESTAS.htm>  
[http://www\\_corrientesturistica\\_gov\\_ar.htm](http://www_corrientesturistica_gov_ar.htm)  
<http://www.negocionea.com.ar/CARNAVAL.htm>  
<http://www.carnaval-corrientes.com.ar/interior.htm>  
[http://www.gualeguaychuturismo.com/principal\\_carnaval.htm](http://www.gualeguaychuturismo.com/principal_carnaval.htm)

原稿：荻村昌代（編集委員）取材協力：Yuichi Inomata 氏  
 （コリエンテス市出身、現在日本に留学中）

## ■編集後記■

年末、約3年振りに里帰りをし両親をはじめ、多くの友人や知人と会ってきた。私は、アルゼンチンで生まれ育ったため、エセイサ国際空港に到着した途端頭の中のスイッチを「現地モード」に切り替え、一人のアルゼンチン人に戻るようにし、できるだけ違和感のないように皆と接し、交流を楽しむようにする。とはいえ、もう来日して14年になり、どうしても外見や服装を含め日本人的な部分が身に付いており、フロリダ通りを歩いていると外国人と間違えられてバッグや革製品の勧誘に声をかけられてしまう。

アルゼンチンはここ2年で大きく変わった。

2001年末の経済・金融危機は一つの制度崩壊であったため、人と人との関係、地域社会での人間関係、そして市民と国家との関係が歪んでしまい（以前からも様々な構造的な歪みは指摘されてきたが）、すべての官民の仕組みや組織が機能不全に陥ったのである。

たしかに現在、経済は回復しつつあり、数字のうえでは明るい方向性が見えるが、社会生活に必要な信頼関係と国際社会の信用回復を築くにはかなりの時間と計り知れない制度的な努力が必要になる（個々の人間は限度を超える忍耐が試されている）。

新政権が誕生して期待も高まっているが、既存の法体系や諸制度を一部完全に見直すと言われており、これが期待の理由であるとともに大きな不安材料でもある。目的があまり明確でない「改革」も目立ってきており、パフォーマンスに終わってしまう可能性も今までの歴史は教えている。

また、たしかに国際社会にも問題があり、90年代の「グローバル」な関係と国際金融機関のあり方にも真の改善が求められている。アルゼンチンはその問題提起の手本になりそうであり、場合によっては南米地域だけではなく、世界経済にもかなりの影響を与える可能性があり、今年度末ぐらいにはある程度の方向性が見えてくるのではないと思われる。それに、政治の失敗は大きな代償を伴うということを国民は痛感している一方、その分、不満と期待のバランスが重要になる。

日本でも、一部のアナリストの間ではアルゼンチンの事例をかなり詳しく研究しており、自国の諸問題に照らし合わせて危険を察知し始めているようだが、こうしたヒントで日本が実態を直視しほんとうの回復の方向に行くのであれば、幸いである。

今年も予断を許さない年になりそうだ。

編集長 ALBERTO MATSUMOTO



追伸：ブエノスアイレスでは、多くの方々  
 大変お世話になり、貴重な時間を頂いた  
 ことを心から感謝したい。



## 目次 - INDICE

会長：年初のご挨拶 .....	1
横浜で「アルゼンチンのクリスマス」 .....	1
トヨタカップ：ボカジュニアズ優勝 .....	2
ビエルサ外相来日 .....	3
アルゼンチンワインセミナー .....	3
2003年の輸出入と2004年の展望 .....	4
最新アルゼンチン情勢-政治・経済 .....	5-8
佐々木幹夫氏、アルゼンチン訪問 .....	6
大豆が頼り? .....	7
アルゼンチン：2004年の予測 .....	8
年末のブエノスアイレス：観光客溢れる .....	9
アルゼンチンのリゾート温泉施設 .....	9-10
ハーブティー系の飲料水登場 .....	10
パレルモソーホーというスポット .....	10
日本文化の伝達者：叙勲された横浜ノルマ氏 ..	11
祖父母、母の故郷での研修：古賀ナタリア ..	12
2003年秋の叙勲 .....	12
「オラ・アミーゴス」西語の学習書出版案内 ..	12
アルゼンチン在留邦人数 .....	13
日本在留アルゼンチン人数 .....	13
6人の日系社会青年ボランティア派遣 .....	13
藤沢でのアサード .....	14
大城バネサ：ミニアルバム発売 .....	14
南極の日 .....	14
夏のカーニバル：コリエンテス .....	15
編集後記 .....	15
イベント案内&お知らせ .....	16

+++++

**Argentinismosのコーナー**：アルゼンチン特有の語法&俗語 (lunfardo)は大変好評でしたが、今回はスペース上掲載することができませんでしたので、次号に回しました。どうか、ご了承ください。また次回から、アルゼンチン料理（地方の郷土料理も含む）のレシピも紹介する予定です。

### 中川美亜のアルゼンチンタンゴ弾き語り アルゼンチンタンゴ・バー **ダリ**

\*\*\*\*\*

東京都新宿区荒木町3-5-2 駒ビル1F

Tel: 03-3357-6635 (四谷三丁目駅徒歩5分)

営業時間:18:00~24:00 (土日祝休)

セット料金 4,000-円

(チャージ・2ドリンク・おつまみ付)

中川美亜 (V&P) 西澤守 (V&G)

<http://www.mia-n.nu/>

♪ピアノ伴奏でお客さんも歌えます♪



(広告)

## お知らせ

### ■ グローリア&エドゥアルド・タンゴ舞踏団

～アルマ・デ・タンゴ-**Alma de Tango**～

【出演】ダンスカップル・振付・構成演出／グローリア&エドゥアルド、ダンスカップル／カルロス&アンヘレス、ミリアム&ウーゴ、ジェラルディン&ハビエル、マリアーノ&ロレダナ、マリエラ&ペイ、演奏／カルロス・マルサン楽団（オルケスタ7名）、男性歌手／ダニエル・オリベラ、女性歌手／サンドラ・カバル

1月22日～3月25日まで全国各地で公演中

S席 5,900円 A席 4,900円

(問合せ) MIN-ON チケットセンター

Tel: 03-3226-9999

●2月5日(木)よこすか芸術劇場 18:30開演

●2月7日(土)川崎市教育文化会館 18:30開演

●2月24日(火)府中どりーむホール18:30開演

これらの3公演はラティーナでも購入可能

Tel: 03-5768-5588

\*\*\*\*\*

### Carlos Gardelはウルグアイ生まれ?

Carlos Gardelは、アルゼンチンでは、いやタンゴの世界では「タンゴの王様」として知られている人物である。



亜国の記録では、同氏はフランス生まれであるが、小さい頃母親とアルゼンチンに移民したというのが定説である。ウルグアイにも住んだことがあるようだが、つい最近、同国の議会(下院)が、「Gardelはウルグアイで生まれたという根拠があるので、ブエノスアイレスに埋葬されている同氏のDNA鑑定を要請する」という決議を採択したのである。本人の鑑定だけではなく、両親とされているウルグアイ人二人のも行われるとのことである(フランス人母親のも同時にするとのこと)。

当然ながら、アルゼンチン側は反対し、隣国の対応は波紋をよんでいる。+++++

この会報の作成に当たり多くの方々に協力して頂いています。より充実した内容にしていきたいと思っておりますので、今後とも会員読者をはじめ関係者の皆様のご指導のほどをどうかよろしくお願い致します。

Cualquier inquietud o propuesta para ir mejorando este boletín será bienvenida. Desde ya, deseamos seguir contando con la colaboración de todos.

編集長 J. アルベルト松本 - Alberto MATSUMOTO

編集委員：河崎勲常務理事、塩見憲一 理事、イレーネ賀集 理事、山下美里 秘書、萩村昌代 委員。

HOME PAGE開設：<http://www.argentina.jp/>

開設しましたが、まだデータ(コンテンツ)を入れている最中です。

Ya está disponible la página WEB. En unos meses estará con toda la información que nos han propuesto.